

平成28年度 吉野ヶ里町立東脊振中学校 学校評価結果

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
自主的に学び合う生徒の育成	① 学習の構えを徹底し、学力向上を図る。 ② いじめ防止と不登校への対応の充実など人権教育を中核に据えた生徒指導や特別支援教育の充実を図る。 ③ 小中連携による校内研究の充実を図る。 ④ 個性を伸ばす部活動の推進に努める。

<b>3 目標・評価</b>							
<b>① 学習規律の徹底と学力向上</b>							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	学び合う授業の指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上アクションプランに基づき、「めあて」「課題解決(学び合う活動)」「まとめ・振り返り」の授業を100%実践する。</li> <li>・教育センター講座などを、1人1講座以上受講する。</li> <li>・全教職員が研究授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上アクションプランの実践状況をチェック表で毎月確認する。</li> <li>・黒板に「めあて」「まとめ」のカードを貼り、それを明確にした授業を行う。</li> <li>・学習指導案に「めあて」「課題解決」「まとめ・振り返り」を明記する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「めあて」を明示し、「まとめ」を行う授業はできていた。</li> <li>・「課題解決」については、授業研究会などを通して、グループ編成、机配置などを工夫し、共通理解して取り組めた。</li> <li>・1人1講座以上受講することができた。</li> <li>・全職員が研究授業を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題解決」の工夫については、今年度は主に道徳授業を中心に研究したので、来年度はそれぞれの教科において学び合う活動などの指導方法を改善していく。</li> </ul>
教育活動	●学力向上	読書量が増加と読書の幅の広がり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、教科との連携を図る。</li> <li>・図書資料の充実と環境づくりに努める。</li> <li>・1人1か月に3冊貸出、年間8,000冊の貸出をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年・教科と連携し、図書に関する情報発信の機会を増やす。</li> <li>・生徒が親しみやすく、利用しやすい環境づくりに努める。</li> <li>・委員会と協力し、定期的なイベントを開催する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生、3年生の総合的な学習の時間や国語の授業を中心に、図書室での調べ学習など図書室の資料を活用した授業を行った。</li> <li>・目標である年間貸し出し冊数8,000冊に対し、7,937冊でおおむね目標達成をできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このまま継続して3学期、1人3冊貸し出しを目指し、生徒が足を運びたいような環境整備、イベントに取り組む。</li> <li>・各教科、学年、図書主任と連携し、学習に役立つ図書館の運営と図書の充実に努める。</li> </ul>
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICT利活用による学習内容の理解促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板等を利用した授業づくりを行い、電子黒板の活用率が90%を上回る。</li> <li>・ICT利活用に関する職員研修を年2回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板の操作・活用についての全職員研修会を実施する。</li> <li>・ソフト活用スキルアップについての小規模研修会を実施し、活用力向上を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書の導入が2学期であったため、電子黒板の活用率は63%であったが、効果的な場面を見極めて電子黒板を活用できた。</li> <li>・ICTの利活用法の個人指導や研修先での情報を共有できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板の利活用を推進するために、研修に参加させ、効果的な電子黒板の活用方法を工夫・改善する。</li> <li>・新たなICTの活用例があれば、その研修に積極的に参加する。</li> </ul>
<b>② 生徒指導・特別支援教育の充実</b>							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの早期発見・早期対応と仲間づくりの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、生活アンケートを実施し、いじめの早期発見と対応を行う。</li> <li>・学校生活が楽しいと回答する生徒が70%以上になるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出番・承認・称賛により、生徒の自己肯定感を高める。</li> <li>・いじめへの組織的な対応体制を作り、未然防止に向けて、定期的に職員間の情報交換を行い、共通理解を図る。</li> <li>・自己肯定感と他者理解を高めるため、道徳教育の充実を図り、構成的グループエンカウンターなどの活動を実践する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週末に生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めた。</li> <li>・学校生活が楽しいと回答した生徒は、1年生が89%、2年生が89%、3年生が87%であり、目標の70%を上回った。</li> <li>・生徒間のトラブルが数件発生したが、解決に向け対応することができた。</li> <li>・道徳教育の充実や行事などで生徒の自己肯定感を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出番・承認・称賛を徹底し、生徒の自己肯定感を高める。</li> <li>・いじめ予防及び対策については、引き続き、組織として対応する。</li> <li>・生活アンケートは継続して実施する。</li> <li>・生徒のコミュニケーション能力向上を目的とした学級活動に取り組ませる。</li> </ul>

教育活動	●心の教育 (人権教育)	人権意識を高め合い、 自他を尊重する心情と 行動力を持った集団の 育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会等を活用し、人権意識を高める講話を行う。</li> <li>・人権学習に取り組み、人権意識を高める。</li> <li>・職員の人権・同和教育に関する意識と指導力を高めるため、校内研修を行い、校外研修に1人1回以上参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権・同和教育担当を中心に講話や集会等に取り組む。</li> <li>・生徒が協働して取り組む中で達成感を得たり問題解決力を身に付けたりすることのできる生徒会活動、人権集会、平和学習など実施する。</li> <li>・外部講師を招聘して校内研修を充実させるとともに、校外研修への参加推進を担当が集約して図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権週間を実行委員会や学級担任、学年人権教育担当者、道徳教育担当者、PTA学年活動部役員との協働によって実施することにより、多くの生徒が人権問題を他人事ではなく自分のこととして捉えることができた。</li> <li>・年度当初に人権・同和教育に関する研修計画を作成したことによって、全職員が県内や三神地区内の各種研修会に積極的に参加し、人権・同和教育に関する理解を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権週間をはじめとする人権・同和教育の諸活動をさらに充実・発展させる。</li> <li>・「東中人権宣言」に係る意識調査を定期的に行い、人権意識の弱い項目を改善するための活動(人権講話やビデオ視聴など)に取り組む。</li> <li>・上記の活動の際には、道徳教育や特別活動と連携しながら、学年だけでなく学校全体の活動としていく。</li> </ul>
------	-----------------	--	---	---	---	---	---

### ③ 小中連携による校内研究の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育 (道徳教育)	小中の合同研修会や相互授業参観の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同研修会を年3回実施し、共通理解と協働活動を推進する。</li> <li>・全職員が相互に授業を参観する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の学習指導案を小中で統一する。</li> <li>・学期に1回は、相互に授業参観できるよう時間割の調整をする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の充実を目指した小中合同研修会を全体で4回実施し、部会によっては、さらに協議を続けている。</li> <li>・研究発表会に向けて、学習指導案や道徳の全体計画を小中で統一した。</li> <li>・各校の授業研究会の際には相互に参観し、互いの研究の進捗状況を把握しながら研究を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間の研究の成果と課題を生かすために、小中連携を行いながら、生徒たちの心の教育の充実を継続する。</li> <li>・相互に道徳の授業を参観する機会を継続して設け、小中学校との相互連携に努める。また、地域の方と共に道徳の授業を行うなど、地域連携の方策を探る。</li> </ul>

### ④ 個性を伸ばす部活動の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全身持久力(シャトルラン)の測定値が向上した生徒が50%以上になるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育学習及び部活動の充実を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前にランニングを行うことができた。生徒が自分のペースで走ることで、多くの生徒が意欲的に走ることができた。</li> <li>・全身持久力の向上について、5月と1月に実施したシャトルランの結果を比較すると、51%の生徒が伸びていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力・運動能力の実態を把握・分析し課題を明確にして、学校としての具体的な目標(わかりやすい数値等)を提示する。</li> <li>・生徒に自らの結果を分析させ、生活習慣と運動習慣を振りかえらせ、自分なりに目標や計画を立てて取り組めるようにする。</li> <li>・体育の授業で色々なスポーツの特性にふれさせ、自らスポーツに取り組む態度を育てる。</li> </ul>

### 3 本年度のまとめ ・ 次年度の取組

・学力向上については、学び合う活動の充実、学習の心構えの定着、電子黒板の利用、ティームティーチングによる授業などによって、成果が表れてきている。家庭学習については、i-checkの結果からみると、1年生は5月調査では全国平均と同程度であったが、11月調査では学習時間が減っており全国平均を大きく下回っている。2年生は、5月より11月が学習時間が増えており、全国平均と同程度になった。3年生は、5月には全国平均より低かったが、11月には全国平均と同じところまで増えている。1年、2年の家庭学習の時間が短いため、次年度には生徒たちの家庭学習への取組についての対策を検討していきたい。

・生徒指導については、生徒の互いを思いやる心を一層育て、人権教育や道徳教育の充実をしっかりと進めていく必要がある。

・小中連携教育については、研究指定を受けている道徳教育を中心に進めてきた。道徳の授業や小中連携による体験活動などを通して、生徒たちの道徳的価値観を高め、自己肯定感を高めることができた。次年度には、さらに道徳教育の充実を図り、教科教育の連携など、小中一貫教育を見据えた連携を進めていきたい。

・部活動については、生徒たちが熱心に取り組み、県大会、地区大会において、好成績を上げた部活動もあった。結果にこだわり過ぎず、日ごろの練習を通して、技術の向上とチームワークなどの人間関係力や持続力、忍耐力なども鍛えていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目